

# 『素問』『靈樞』こそ伝統医学のよりどころ

## 現代語訳◎黄帝内经靈樞 上下巻

原書

『黄帝内经靈樞訳』 第三版  
南京中医药大学中医系編著  
上海科学技术出版社 一九九六年刊

監訳

訳者

石田秀実 (九州国際大学経済学部教授)  
白杉悦雄 (東北芸術工科大学教養部助教授)  
白杉悦雄 (東北芸術工科大学教養部助教授)  
松木さか (大正大学講師・大東文化大学人文科学研究所客員  
研究員・赤門鍼灸柔整専門学校非常勤講師)  
島田隆司 (日本伝統鍼灸学会会長・島田鍼灸院長)  
勝田正泰 (小田原市・勝田医院院長)  
藤山和子 (大妻女子大学教授)  
前田繁樹 (皇學館大学文学部非常勤講師)  
武田時昌 (京都市大学人文科学研究所助教授)  
佐藤 実 (関西大学大学院博士課程)  
石田秀実 (九州国際大学経済学部教授)

体裁

A5判 上製 函入 縦書 原文と和訓は上下二段組  
〔上巻〕一〜四〇篇 五六八頁  
〔下巻〕四一〜八一篇 五五二頁

〔上・下各巻〕(下巻は四月出版予定)

◆通常定価Ⅱ本体一、〇〇〇円十税(計二、〇〇〇円十税)

◆出版記念特別価格Ⅱ本体 九、六〇〇円十税 (計一九、二〇〇円十税)

◆特価期間：〔上巻〕二〇〇〇年六月三十日まで  
〔下巻〕二〇〇〇年十月三十日まで

今が絶好のチャンスです!

現代語訳◎黄帝内经素問 全二巻

編著 南京中医药大学中医系  
監訳 石田秀実 (九州国際大学教授)  
訳 島田隆司/庄司良文/鈴木洋  
藤山和子/石田秀実/勝田正泰  
兵頭明/松村巧



〔上巻〕五二二頁 一〇、六八〇円  
〔中巻〕四五八頁 九、五一五円  
〔下巻〕六三四頁 二、〇〇〇円  
〔全3巻〕 三三、一九五円

中国傷寒論解説

A5判上製二六〇頁 三、四九六円  
劉渡舟 (北京中医药大学教授) 著  
勝田正泰/川島繁男/菅沼伸/兵頭明 訳

〔原文〕傷寒雜病論(『傷寒論』『金匱要略』)

B6判ポケット版三三八頁 三、〇二〇円

金匱要略解説

A5判上製函入六八〇頁 六、五〇五円  
何任 (浙江中医学院教授) 著 勝田正泰 監訳  
内山恵子/勝田正泰/菅沼伸/庄司良文/吉田美保  
兵頭明 共訳

難経解説

A5判上製函入四四〇頁 六、五〇五円  
南京中医药大学編 戸川芳郎 (元東大教授) 監訳  
浅川要/井垣清明/石田秀実/勝田正泰/鈴木和子  
兵頭明 訳

現代語訳◎奇経八脈考

A5判三三八頁 六、〇二〇円  
李時珍 著 王羅珍・李鼎 校注 勝田正泰 訳・和訓

お待ちせいたしました!  
『靈樞』現代語訳本が、  
ついに完成!

〔原文・和訓・注釈・現代語訳・解説〕

編著 南京中医药大学中医系

監訳 石田秀実 (九州国際大学教授)

白杉悦雄 (東北芸術工科大学助教授)

体裁 A5判 上製 函入 縦書

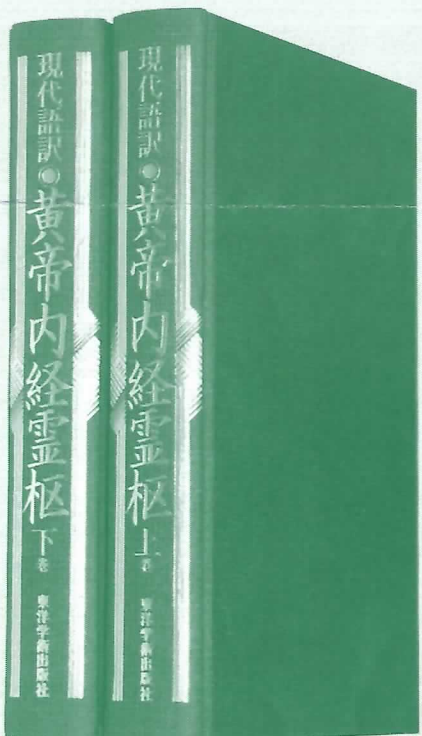
原文と和は上下二段組

〔上巻〕一〜四〇篇 五六八頁

〔下巻〕四一〜八一篇 五五二頁

上巻発売中

下巻は四月ごろ発売予定です。  
ご予約いただいた方には、出来  
次第追ってお送りいたします。



現代語訳

◎黄帝内经靈樞

上下二巻

東洋学術出版社

〒272-0822  
千葉県市川市宮久保3-1-5  
電話 047-371-8337  
FAX フリーダイヤル  
0120-727-060



## 本書の特色

### ●日本で初めての出版 『靈枢』和訓・現代語訳・解説書

過去、日本において『素問』はしばしば出版されたが、『靈枢』の出版はきわめて少ない。和訓・解説を加えた初学者のための『靈枢』の出版は明治以降初めてであろう。まして、現代語訳を含めた解説書は今回が初めてである。

### ●臨床家の垂涎の書を座右に置いて

『素問』に続いて、『靈枢』の和訓・現代語訳が完成したことによって、渴望された『内経』をついにわれわれは手にすることができるとなった。長年らい、『素問』『靈枢』は臨床家の最も重要な古典であることは知りながらも、直接目に触れるチャンスはほとんどなかった。今ようやく、垂涎の書を自分の手にしてじっくりと読むことができる。ついに伝統医学を活用する幕は開かれたのである。伝統医学の臨床家は、この得難い書をぜひとも座右に置き、熟読玩味されて、無限の智恵を存分に楽しみ吸収していただきたい。

### ●中国で定評ある最もポピュラーな 解説書

原著『黄帝内経靈枢訳釈』は、初学者が『内経』を学ぶ上で格好の解説書として、中国で定評のある書籍。本書は、これに見事な和訓を付している。全書は【原文・和訓・注釈・現代語訳・解説】と必要なすべての内容が含まれており、まさに『靈枢』の総合的な解説書となっている。

### ●最高の監訳・翻訳チームによる 優れた翻訳と和訓

石田秀実先生が途中で病に伏されたため、白杉悦雄先生が石田先生の依頼を受けて、全面的に監訳を引き受けてくださった。白杉先生には誠に精緻な監訳をしていただいた。翻訳陣には、この分野の代表的な学者・研究者が多数参加され、理想的な訳書を世に出すことができた。中国学の専門家チームが中心になって完成していただいたことの意味は非常に大きい。臨床家にとって最大の福音といえよう。

## 本邦における唯一無二の 『靈枢経』解説書

鍼術治療家の渇仰する経典『靈枢経』。その教える精神と鍼術を臨床に活用するは、靈妙の偉力を発揚し、われわれに比類なき恩恵をもたらすこととなる。このことは古来より歴史の証明するところでありませう。

今般、『現代語訳●黄帝内経靈枢』は、東洋医学古典に造詣の深い周知の石田秀実先生と、同門の白杉悦雄先生の御両人の監訳、及び他五名の斯道に優れた実績を持たれる協力者を得て、翻訳・出版されました。格調高く、活用し易い利便性を併せ持つその特色は他に比ぶるものなく、まさに無類の書であります。古典勉学者各位は本書を座右の書として熟読玩味されたい。

時、恰も歴史的に記念すべき二〇〇〇年、要の歳の発刊を、双手を挙げて慶び推薦する次第です。



経絡治療学会副会長  
日本伝統鍼灸学会名誉会長

岡田明祐

## 九鍼十二原篇 第一

【解題】

本篇では、主に、古代にあったとされる九種類の鍼の名称・形状・用途と、刺鍼の際の疾・徐・迎・随・開・闔などの手法と、補瀉の効果について説明する。併せて、肘・膝・胸・臍などに分布する左右、正中を合わせて十二の原穴と、蔵府の疾病によってそれら十二の原穴を使い分ける治療方法について述べる。そこで、この篇を「九鍼十二原」と名づける。

黄帝問於岐伯曰、余子万民、養百姓、而収其租税。余哀其不給、而属有疾病。余欲勿使被毒薬、無川砭石、欲以微鍼通其経脈、調其血氣、營其逆順出入之会。令可伝於後世、必明為之法、令終而不滅、久而不絶。易用難忘、為之經紀、異其章、別其表裏、為之終始、令各有形。先立鍼経。願聞其情。

かにせしめ、終わりで滅せず、久しくして絶えざらしめん、用い易く忘れ難く、これが經紀を為し、其の章を異にし、其の表裏を別ち、これが終始を為し、各おのをして形あらしめん。先に鍼経を立てん。願わくは其の情を聞かん。

【注釈】

- ① 子—愛する、慈しむという意味。
- ② 属—連続して、引き続きという意味。
- ③ 毒薬を被る—「被」とは、受けるという意味。「毒薬」とは、治療に使う薬物の総称である。汪機の説「それで病を攻めることができるものは、みな毒という」。
- ④ 砭石—古代、疾病を刺して治療するのに用いた尖った石。
- ⑤ 經紀—筋道、順序という意味。

【現代語訳】

黄帝が岐伯に問う。「私は万民を慈しみ、百姓を養い、彼らから租税を徴収している。私は彼らの生活が自給出来るものでなく、さらには連続して疾病が発生しているのを哀れに思う。彼らの疾病の治療にあたって、私は薬物と砭石とを使うことなしに、微鍼を用いて経脈を通じさせ、血気を調和させ、経脈中の気血の往来、出入や会合を正常に回復させたいと考える。同時に、こうした治療方法を後世に残し、鍼治療の道理を明らかにし、それを永遠に滅びることなく、久しきにわたって伝わるようにさせたいと思う。容易に運用できてかつ忘れにくく

## 組見本